

平成25年度 山形のみちづくり評議会 (第1回)

議事要旨

1. 日時

平成25年11月22日(金) 14:00~16:00

2. 出席委員

柴田会長、石井委員、塩原委員、亀森委員、宮原委員、池田委員、小山委員、高木委員
橋本課長(井上委員代理)、岡委員

3. 議事

- 1) 「山形県道路中期計画 改訂版(素案)」について 【協議】
- 2) 平成24年度達成度報告書について 【協議】
- 3) 事故危険区間対策箇所について 【報告】

4. 議事概要

- 昨年度の評議会における協議結果を踏まえて作成した山形県道路中期計画 改訂版(素案)について事務局より説明を行い、主に以下のような意見交換が行われた。
 - ・大規模災害のみではなく、土砂災害や大雪による通行止め等の高い頻度で発生する災害に対しても被害・影響を少なくするための事業・取り組みが必要である。
 - ・「最優先する施策」にランクを引き上げたものについては、そのことが視覚的に分かるように記載を工夫してはどうか。
- 平成24年度供用箇所を踏まえ、平成24年度事業効果の検証結果について事務局より説明を行い、主に以下のような意見交換がなされた。
 - ・事業の取り組みを評価するにあたり、年度ごとに計画を立てて明確にすることが必要である。
 - ・道路利用者にとって、より分かりやすい指標を設定することが望ましい。
- 山形県における通学路安全確保対策について事務局より報告を行った。
- 事故危険区間対策事業(H25 取組み状況・H26 候補箇所)について事務局より報告を行った。

5. 主な意見

【「山形県道路中期計画 改訂版（素案）」について】

(1) 各施策における取り組み事業について

- 土砂災害に対する防災・減災対策、道路防災のためのインフォメーションについても中期計画に含めるべきである。何か災害等があった場合には通行止めをしても構わないが、危険箇所が事前に分かっているのであれば、通行規制情報・迂回路情報等を提供して貰いたい。
- 大規模災害のみではなく、土砂災害や大雪による通行止め等の高い頻度で発生する災害に対しても被害・影響を少なくするための事業・取り組みが必要である。
- 夏期と冬期では、現場の状況が変わるので、冬期にも調査を行って頂きたい。
- 地域高規格道路のための休憩施設を整備するうえでは、県・市町村の立場を明確にし、併せて整備のための仕組みづくりが必要である。特に、市町村ごとに道の駅を整備しようとする、一つ一つの規模が小さく、魅力がないものとなる場合が多いため、県がイニシアティブをとって相談役となってはどうか。
- 新たに整備する箇所について、低コスト・耐久性等を考慮するのと同じように、将来的な点検も考慮した構造等になるよう、考え方を考えていけないか。
- 現在、毎年故障・更新していくガードレール等もみられる。道路予算をなるべくかけないよう、地域の実情にあった雪国仕様などの構造物への変更、および地域住民と協力して、道路を大事にしていくことが重要だと考える。
- 7月に発生した豪雨では、県内の道路はほぼ全滅していた。常時通行できる道路を確保することは現実的に難しいが、その確率を上げることが必要である。

(2) 事業効果の早期発現について

- 4車線で計画されている道路が身近にあるが、一向に事業が行われる気配がない。事業を計画したのであれば、なるべく早く完了させて頂きたい。
- 「事業効果の早期発現への取組み」が非常に重要と感じます。箇所数を増やすだけでなく、早く完成させ、それを生かしていく。その際、箇所を選定しなければならないが、必要性は同じだけれども、効果がより大きい方を優先的にしたという説明が出来るようになるといい。
- 今回の改訂で「事業効果の早期発現」が一つのキーになってくる。特に通学路における交通安全対策などの本当に緊急的なものについては、例外として道路予算の枠外で、予算を割り当ててはどうか。県民にもそうしたものについては、理解を得られるはずである。

(3) その他について

- 「最優先する施策」にランクを引き上げたものについては、そのことが視覚的に分かるように記載を工夫してはどうか。また、交通安全対策等は、区画線で早急に対策出来るものと、歩道整備のような長期的対策になるものを分けて、県民にもわかりやすい計画を設定できないか。

【平成 24 年度達成度報告書について】

- アウトプット指標とアウトカム指標が混合している。道路利用者にとって分かりやすい指標となるよう工夫が必要である。
- 予算が単年度のため、難しいかもしれないが、年度ごとに計画を立てて明確化し、フィードバックを行うえるようにすることが必要である。

【事故危険区間対策箇所について】

- 事故が実際に発生していない箇所についても、事故が発生する危険性がある場合には対策を実施できるよう、対策箇所の選び方について検討する必要がある。

以上

第1回評議会 でいただいた意見への補足説明

「山形県道路中期計画 改訂版 (素案)」について

	意見	対応
1	土砂災害に対する防災・減災対策、道路防災のためのインフォメーションについても中期計画に含めるべきである。何か災害等があった場合には通行止めをしてもかまわないが、危険箇所が事前にわかっているのであれば、通行規制情報・迂回路等を提供して貰いたい。	・県としても現在課題があると考えているため、改訂版では施策8に「減災対策」という項目をもうけて、情報提供の仕組みづくりを行なうこととしています。
2	大規模災害のみでなく、土砂災害や大雪による通行止め等の高い頻度で発生する災害に対しても、被害・影響を少なくするための事業・取り組みが必要である。	・計画の策定当時から「自然災害の多発化と驚異の増大」を課題として認識しており、施策の7と8において対策を行うこととしています。
3	「事業効果の早期発現への取り組み」が非常に重要と感じます。箇所数を増やすだけでなく、早く完成させ、それを生かしていく。その際、箇所を選定しなければならないが、必要性は同じだけれども、効果がより大きい方を優先的にしたという説明が出来るようになるとうい。	・県としても重要な課題にとらえ、みちづくりの新たな考え方として、改訂版に盛り込んでおります。 事業の選定にあたっては、事前評価を行ない、その個別評価項目で整備効果も評価しております。 また、事業中には事業中評価、事業後には事後評価を行なうこととしております。
4	「最優先する施策」にランクを引き上げたものについては、そのことが視覚的にわかるように記載を工夫してはどうか。 また、交通安全対策等は、区画線で早急に対策出来るものと、歩道整備のような長期的対策になるものを分けて、県民にわかりやすい計画を設定できないか。	視覚的にわかるように記載します。 通学路の安全確保対策では、前年度の点検結果に基づき、対策箇所を選定していることから、対策必要箇所数が変動するため、指標として設定し無いことにしました。 なお、県のホームページでプログラムや個別の対策箇所の対策方法などを公表しており、今後とも県民にとってわかりやすい計画になるように努めます。
5	アウトプット指標とアウトカム指標が混合している。道路利用者にとってわかりやすい指標となるよう工夫が必要である。	・アウトプット指標（事業量の指標）については、アウトカム指標（事業の実施により発生する効果の指標）の設定が難しい施策について設定しておりました。 県民にとってわかりやすくなるよう、県のホームページ等で個別箇所の事業効果や地域における事業箇所がわかるような工夫をしていきたい。
6	予算が単年度のため、難しいかもしれないが、年度ごとに計画を立てて明確化し、フィードバックを行えるようにすることが必要。	・複数年度の事業計画を年度ごとに公表するのは難しいが、当該年度の事業予定について、ホームページ等で公表できるよう考えていきたい。